

## 伊藤秀三\* 岡本 香 博士を悼む

S. ITOH\* : Obituary of the Late Dr. K. OKAMOTO



岡山理科大学教授 岡本 香 博士は、昭和54年4月15日、逝去された。その半年まえ、千葉大学で行われた植物学会のとき、私は氏とお逢いしたばかりであった。余りにも卒然とした氏の旅立ちを知らされたとき、私は拳を握りしめて絶句した。氏が御家族をはじめ研究や大学のことなどに思いをめぐらしたであろうその心境を察するとき、私はいふべき言葉を知らない。

岡本 香 氏は島根大学文理学部を御卒業のち広島大学大学院に進まれ、故堀川芳雄教授のもとでスゲ属の分類・生態・地理の研究に打ちこまれた。同じ時期に同じ講座にいた私は、氏と歓談し、議論し、野外に赴く機会をしばしば持った。ここにかかげた遺影もその頃のものである。研究にも私生活にも真摯な態度をつらぬき、それでいてつねに笑顔を絶やさぬ人であった。

研究は学位論文「本州西部のスゲ属の分類学的研究」(英文)として実を結んだ。それには4新種2新変種の記載と共に、空白に近かった同地域のスゲ属フロラのまとめとその地理的生態的解析が行われている。

岡山理科大学には、昭和39年の創立と同時に移られた。この頃から御自分の研究のかたわら、標本の同定依頼にも時間をさかれた。植生研究上の難物であるスゲ属の同定で、氏のお世話になった者は私をふくめて数多くいる。

新設大学にあって、氏は大学の整備拡充にも情熱を傾けられた。同大学の蒜山研究所の建設、さらに基礎理学科の創設は、氏の推進力と組織力の賜物であると聞く。この春、同科は第一回卒業生を世に送り出した。と同時に、その生みの親というべき岡本 香 氏はこの世を去られた。

それは氏の46才の誕生日であった。奥様と御子息二人を残して、それこそ卒然と逝去された。膵臓ガンであった。神が間違いを犯したとしか言いようがない。深く深く御冥福を祈る。